

— 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。 —

お得意様各位

使用上の注意改訂のお知らせ

2014年11月

摩耶堂製薬株式会社

外用合成副腎皮質ホルモン剤  
**クロベタゾン<sup>®</sup>軟膏0.05%**  
CLOBETAPOLLON Ointment 0.05%  
〈クロベタゾン酪酸エステル製剤〉

このたび、自主改訂により標記製品の「使用上の注意」を改訂いたしますので、ご案内申し上げます。  
今後のご使用に際しましては、下記内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 改訂内容（下線 部追加改訂）

改訂後	改訂前
<p><b>〔使用上の注意〕</b></p> <p><b>6. 適用上の注意</b> (1)～(3)略 <u>(4)乳幼児や小児の手の届かない所に保管させること。</u></p>	<p><b>〔使用上の注意〕</b></p> <p><b>6. 適用上の注意</b> (1)～(3)略 無し</p>

2. 改訂理由

企業報告(先発会社)による自主改訂により、追記し、注意を喚起することと致しました。

改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会発行の「DSU(医薬品安全対策情報)No.235」(2014年12月)に掲載されます。

また、改訂後の添付文書は、弊社ホームページ(<http://www.mayado.jp/>)及び医薬品医療機器情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)に掲載いたします。

以上

お問合せ先

摩耶堂製薬株式会社 医薬部  
〒651-2142 神戸市西区二ツ屋 1-2-15  
TEL 078-929-0066 FAX 078-929-1180



摩耶堂製薬株式会社

**[禁忌(次の患者には使用しないこと)]**

- (1) 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
- (2) 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎の患者  
[穿孔部位の治癒が遅れるおそれがある。また、感染のおそれがある。]
- (3) 潰瘍(ペーチェット病は除く)、第2度深在性以上の熱傷・凍傷のある患者  
[皮膚の再生が抑制され、治癒が著しく遅れるおそれがある。]

**[原則禁忌(次の患者には使用しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に使用すること)]**

細菌、真菌、ウイルス皮膚感染症の患者(病期あるいは症状に応じて使用すること)  
[感染を悪化させるおそれがある。]

**[使用上の注意]**

**1. 重要な基本的注意**

- (1) **皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎**には使用しないことを原則とするが、やむを得ず使用する必要がある場合には、あらかじめ適切な**抗菌剤、抗真菌剤**による治療を行うか、又はこれらとの併用を考慮すること。
- (2) **大量又は長期にわたる広範囲の密封法(ODT)**等の使用により、副腎皮質ステロイド剤を全身的投与した場合と同様な症状があらわれることがある(「副作用」の項参照)。
- (3) 顔面、頸部の病巣に長期間使用する場合には、慎重に使用すること。
- (4) 本剤の使用により症状の改善がみられない場合又は症状の悪化をみる場合は使用を中止すること。
- (5) 症状改善後は、できるだけ速やかに使用を中止すること。

**2. 副作用**

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

**(1) 重大な副作用(頻度不明)**

眼瞼皮膚への使用に際しては、**眼圧亢進、緑内障**を起こすことがあるので注意すること。  
大量又は長期にわたる広範囲の使用、密封法(ODT)により**緑内障、後囊白内障**等があらわれることがある。

**(2) その他の副作用**

種類/頻度	頻度不明
皮膚の感染症	皮膚の細菌性感染症(伝染性膿痂疹、毛囊炎等)、真菌性感染症(カンジダ症、白癬等)及びウイルス性感染症があらわれることがある[密封法(ODT)の場合、起こりやすい]。
	このような症状があらわれた場合には、適切な抗菌剤、抗真菌剤等を併用し、症状が速やかに改善しない場合には、使用を中止すること。
その他の皮膚症状	長期連用により、ステロイド瘡瘡、酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(ほほ、口囲等に潮紅、丘疹、膿疱、毛細血管拡張を生じる)、ステロイド皮膚(皮膚萎縮、毛細血管拡張、紫斑)、魚鱗癬様皮膚変化、多毛、色素脱失等があらわれることがある。 <sup>(注)</sup> 一過性の刺激感、乾燥があらわれることがある。
	注)このような症状があらわれた場合には徐々にその使用を差し控え、副腎皮質ステロイドを含有しない薬剤に切り替えること。
過敏症	紅斑等があらわれることがある。 塗布部に紅斑、発疹、蕁麻疹、痒痒、皮膚灼熱感、接触性皮膚炎等の過敏症状があらわれた場合は、使用を中止すること。なお、これらの症状は原疾患の症状に類似している場合がある。
下垂体・副腎皮質系機能	下垂体・副腎皮質系機能の抑制 大量又は長期にわたる広範囲の使用、密封法(ODT)により、下垂体・副腎皮質系機能抑制を来すことがあるので注意すること。また、このような場合において、投与中止により急性副腎皮質機能不全に陥る危険性があるため、投与を中止する際は患者の状態を観察しながら徐々に減量すること(「重要な基本的注意」の項参照)。

**3. 高齢者への使用**

一般に高齢者では副作用があらわれやすいので、大量又は長期にわたる広範囲の密封法(ODT)等の使用に際しては特に注意すること。

**4. 妊婦、産婦、授乳婦等への使用**

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には大量又は長期にわたる広範囲の使用を避けること。  
[妊娠中の使用に関する安全性は確立していない。]

**5. 小児等への使用**

長期・大量使用又は密封法(ODT)により発育障害を来すおそれがある。  
また、おむつは密封法(ODT)と同様の作用があるので注意すること。

**6. 適用上の注意**

- (1) **使用部位**：眼科用として使用しないこと。
- (2) **使用方法**：患者に治療以外の目的(化粧下、ひげそり後など)には使用しないよう注意すること。
- (3) 本剤の基剤として使用されている油脂性成分は、コンドーム等の避妊用ラテックスゴム製品の品質を劣化・破損する可能性があるため、これらとの接触を避けさせること。
- (4) 乳幼児や小児の手の届かない所に保管させること。